

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 389 号	氏名	三浦陽子
学位審査委員	主査 田口 尚 副査 高橋晴雄 副査 増崎英明		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 硝子体内薬物注射は眼科の重要な治療法であるが、注射部位と薬物動態の関連については明らかにされていない。本研究は、硝子体内への薬物注射部位の違いによる硝子体内および網脈絡膜内の薬物分布を検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 Fluorescence isothiocyanate (FITC) を標識した IgG をモデル薬物とし、硝子体内注射ガイドを用いて、家兎の硝子体内に投与し、硝子体および脈絡膜の IgG 蛍光強度の経時的变化を注射部位別に解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 本研究により、硝子体内注射された IgG は一時的に注射部位にとどまり、拡散するには1日以上時間を要することを明らかにした。また、硝子体から網脈絡膜内への薬物移行には制限があることも示唆された。この結果は、投与薬物の薬効発現時間による硝子体内投与部位選択の意義と硝子体内注射ガイドの有用性を示したものであり、眼科薬物療法の発展に寄与すると思われる。</p> <p>以上のように本論文は眼科治療学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			